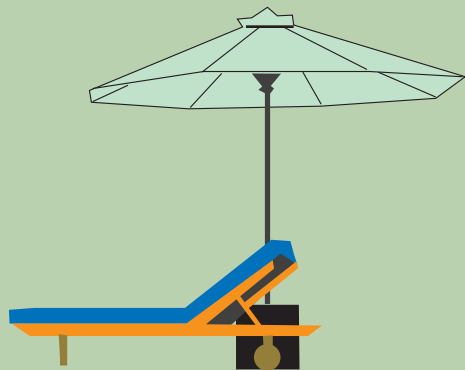


Book Reviews [自著紹介]



我が国には以前から、心臓に何ら異常がない若い男性が夜間にうめき声を発して急死する奇妙な病気があり、「ポックリ病」と呼ばれて恐れられてきました。1992年Brugadaらは、心電図に著明なST上昇を伴う右胸ブロック様所見を示す例がこのような心臓発作を起こすことを見いだし、これが我が国の「ポックリ病」と同一疾患であることを明らかにしました。その後、1998年Chenらが、このような例で、心筋細胞膜のNaチャネルをコードする遺伝子SCN5Aの変異を認め、致死的不整脈を惹起するイオンチャネル病の一つとして注目され、Brugada症候群として世界的に広く関心を集めるようになりました。

Brugada症候群は我が国には比較的多く、その遺伝素因の存在を示す軽症型のBrugada型心電図(saddle-back型)は集団検診や日常臨床でしばしば遭遇します。その多くは全く自覚症状を起こさないうち予後良好な無症候性Brugada症候群ですが、その数%は致死的不整脈である心室細動を起こす恐れがあることが指摘されています。そのため、本症候群についての正しい認識は、医師のみならず、このような心電図所見を持つBrugada症候群の素因者にとっても大切であると思います。

しかし、我が国には未だBrugada症候群についてのまとまった書物が一冊もありませんでした。そのため、本症候群の概略を把握できる分かり易い書物を出版することは、医学的のみならず、社会的にも意義があると考え、本書の上梓を考えた次第です。

本書は、我が国での最初で、かつ唯一のBrugada症候群についての書物です。110頁前後の簡単な書物ですが、本症候群の基礎から臨床に及び世界的な最新情報を紹介していますので、本書をお読みになると本症候群についての全体的な概念を理解して頂くことが出来ると思います。



『Brugada症候群の臨床』

出版社: 医学出版社
定価: 本体3,045円
発刊日: 2005年3月15日

総合科学部人間社会学科
野村 昌弘 のむら まさひろ



『ジークフリート伝説 ワーグナー『指環』の源流』

出版社: 講談社(学術文庫)
定価: 1000円(税別)
発刊日: 2004年12月10日

総合科学部人間社会学科
石川 榮作 いしかわ えいさく

ジークフリートはニーベルンゲン伝説の英雄です。ニーベルンゲン伝説の起源は五、六世紀のゲルマン民族大移動時代にまで遡り、その伝説は遅くとも九世紀初期には北欧へ伝承されて、のちにエッダやサガにまとめられる一方、オーストリア・ドーナウ地方にも伝承されて、十三世紀初頭には『ニーベルンゲンの歌』へと発展します。これらの素材を用いて十九世紀にワーグナーは楽劇『ニーベルンゲンの指環』四部作を完成させました。

本書はニーベルンゲン伝説の系譜を辿りながら、『ワーグナー『指環』』におけるジークフリート像の特質を探り、ワーグナーのジークフリートはもはや伝統的な不死身の英雄ではなく、「愛」のみが支配する新しい秩序の世界を築き上げることのできる「未来の英雄」であることを主張したものです。授業ではワーグナーを講読していたこともあって、執筆は着々と進み、本書の核心部分は平成十五年の夏一カ月で一気に書き上げました。ワーグナー研究で著名な高辻知義先生(東大名誉教授)が仲介の労を取ってくださって、バイロイト音楽祭の貴重な数枚の写真を掲載することもできました。カバーの絵はハンス・トーマ作「竜退治のあと」のジークフリート(二八八九年)です。本書を読んで、ニーベルンゲン伝説とワーグナーの楽劇『指環』四部作をよりよく理解し、さらにはいつそ両作品を楽しみむきかけとなれば、筆者としては望外の喜びです。